

適切な規模と分かりやすい区割りによる町内会の再編成



【船方学区】

■世帯数：7,124 世帯

■人 口：15,500 人

■面 積：1,511 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 高齢化への対応、防災対策など町内会のより機能的な運営のために適切な規模の町内会、分かりやすい区割りであることが重要であるとの考えから、平成 16 年度から検討を始め、平成 22 年度から学区連絡協議会を中心にした議論を重ね、段階的に再編を実施している。
- ・ 学区内を走る国道 1 号線および江川・西町の幹線道路をまたぐ町内会の編成はしないことを原則とする。

【住民への PR 方法】

学区連絡協議会、広報紙記事、該当町内に出向いての説明

【アピールポイント】

災害時ばかりでなく高齢化等に対応するには日常的な町内会の活性化が必要である。そこで、町内会の再編によりコミュニケーションを密にして町内会・学区の活性化を図ることにした。

2 きっかけ、背景

船方学区は他の学区に比べ面積が広く人口も多く、境界のわかりにくい町内や構成世帯数が極端に少ない所、極端に多い所がある。そのため、わかりやすい境界線と適切規模の町内への再編成に取り組み、高齢化や災害・犯罪に対して共助できる町内会を目指すこととした。

3 運営体制

運営メンバー

区政協力委員、各種団体長（民生委員児童委員会、保健委員会、消防団、PTA、女性会、子ども会、体育協会、防犯協会）

4 運営スケジュール

H16 年度 町内会の再編成を学区連絡協議会において提案

H21 年度 わかりやすい区割り、適切規模の町内会への再編を再提案

H22 年度 一番西部町内会を国道1号線を境界として2つの町内会に再編

H23 年度

- ① 六番北部町内会の江川線東の世帯を四番第一と四番第二町内会へ移動することを3町内会で同意
- ② 二番第七町内会（19世帯）を二番第六町内会へ合併
- ③ 住居と町内会が一致していなかった一番南部第一町内会の2世帯が一番東部第二町内会へ移動
- ④ 一番北部第一町内会の西町線より西側の16世帯が一番西部第二町内会へ移動することに同意

H24 年度 八番南部町内会の国道1号線より北側世帯が八番北町内会へ移動し新しい町内会としてスタート

5 成果と課題

(1) 成果・効果

町内会の活性化。学区連絡協議会会員が自分の町内以外にも目を向けることができた。八番南部町内会は一部が北へ移動したことで役員的大幅変更があり、新体制の努力により町内会員が128世帯増加した。

(2) 苦労した点

住民の理解を得ること。町内会を移動することになった一部の居住者からの強い反対があった。また、学区だよりでは理解と協力をお願いしてきたが、改革を連絡協議会で進めてきたため町内会への説明不足があった。そのため、町内へ出向いて説明することで理解を得た。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続。面積が広く、町内会への加入率が低い町内会を、世帯数も広さも適切な規模に再編成し、未加入者に町内会へ加入してもらうことで町内会の活性化を図る。

(4) メッセージ・アドバイス

町内会の活性化と隣近所の日常的な共助には、密なコミュニケーションと分かりやすい区割りがが必要です。投票所や小学生の分団登下校にも分かりやすい区割りによる適切規模の町内会再編成が有効だと分かった。